

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
20

2012 睦月・如月



鼎談 師家×代表×宗務局長
金剛禅の原点とは

慶春

新年明けましておめでとうございます。

震災から1年がたとうとしています。

震災の復興支援、そして理想境の建設に向けて、共に進みましょう。

金剛禅総本山少林寺代表 浦田武尚

金剛禅の原点とは

2011年に組織機構改革が実行され、より一層、宗教法人としての金剛禅のあり方が問われている。
今号の特集では、金剛禅の原点をテーマに少林寺拳法二世師家と金剛禅総本山少林寺代表、宗務局長が語り合った。

道院本来のあり方

宗務局長 組織機構改革が実行され、金剛禅の教えを伝承していく場として、道院の形態が明らかにされました。当然のことながら金剛禅の教えそのものは普遍で変わるものではないかもしれません。それをどこで学べるのかが明確になったのが今回の改革だといえるのではないのでしょうか。

師家 そうですね。専有道場に人が

集まり語り合い元気になる、いわゆる教化育成できる環境がすでにある道院は、今回の改革で何も変わっていないと言っています。

ところが、組織機構改革を進めてきたこの間、もう道院じゃなくてもいいのではないか、体育館でもどこでも同じことができるじゃないかという言葉を聞くことができました。

これは金剛禅の教えという言葉に對

して、イメージするものが違うからではという気がします。確かに、教えが自分の中に根づいた生き方をしているのだしたら、どこでも同じというのは理解できます。しかし、私たちの活動というのは布教によつて

自分の可能性を信じ、平和で豊かな社会を実現すべく行動できる人を増やそうとしているのです。道院はそ

ういう場なのです。

代表 確かに。金剛禅の原点は「人づくりによる国づくり」といえ、易筋行を基に人は可能性の種子であると自覚し、その可能性を開花させるべく努力し、さらにその活動は社会的広がりを持つものです。本来、

いつまでも易筋行としての少林寺拳法しかできない形でよしとするのではなく、早く道院としての形を整え



2011年11月15日
東京別院にて
担当／山下真由美

るようにという開祖の思いがありました。私も道院活動を公民館から始めましたが、できるだけ早くに専有道場を建設しました。

師家 開祖は1年で道院になれよと言っていました。私は、道院とは拳士だけでなく、拳士の家族や近所の方も集い、地域に必要とされ信頼される場でないならと思うっています。その意味でいうと、自宅の一室が道院だというのは必ずしもマイナスではないですよ。



少林寺拳法 第二世師家
宗 由貴

代表 私は最初に建てた道場が自宅兼道院でしたから、来る人は皆家族と同じという気持ちでした。そのためより深く関わった部分もあり、信頼も得られたと思っています。人が人を呼び、門下生は増えましたね。
宗務局長 やはりなぜ宗教法人かというのが一つ重要なポイントになると思いますが、私は「信」がわれわれのキーワードになるのではと考えています。信頼関係の信、信仰の信。

開祖がしようとした現代社会に正しい釈尊の教えを伝えるということ、やはり道院が展開しやすい。人は変えられる種子であるという縁起の法則、人間はダーマの分霊であるという信仰の確立まで考えると、何ら制約を受けずに活動できる道院という場が必要になると思います。

そして門下生を教化育成していくためにも、指導者は常に高い志を持ち、みずからも学び、研鑽^{けんさん}を積んでいくことが求められる気がします。

指導者の使命とやりがい

師家 改めて開祖の言葉にはっと気づくことがあるのですが、開祖語録を読むと、開祖がどのような人を育てたかったのか、何を伝えようとしていたかがよくわかります。

その開祖の志を伝えるところが私は金剛禪だと思っています。ですから、門信徒や拳士という枠を越えて広く社会に目を向け、人々が何に困り、何を求めているのかを見て、生活の一部に関わりよりよい人生を築いていく運動、それを広めることです。私たちの活動だと思っているのが、私たちの活動だと思っています。開祖がしたように。

そのためには、まず自分たちが生き生きと、誇りと信念を持って生き

ていないと説得力がありませんよね。発展している道院というのは、やはり道院長が輝いています。

代表 そうですね。いつも前向きに夢を持って生きることが大切だと思います。最初から教えも技術も完璧な道院長はいません。徐々に指導者としての素地を備えていけばいい、指導者も修行者であるというスタイルを金剛禪はとっています。

ですから、いつでも前向きに成長してほしいです。私は常にそう思っています。生きてきて、仕事と少林寺拳法で相乗効果を得ることができたと思っています。人を見て法を説くという言葉がありますけど、この人は何が得意だろう、何が向いているのだろうかを見いだしてチャンスをつくり、可能性を伸ばす役目が道院長にはあると私は思っています。



少林寺本山総代
代表 浦田 武尚

宗務局長 私は道院に通うことが楽しくてしかたありませんでした。道院長が楽しい場をつくってくれてい



少林寺本山総代
宗務局長 田村 明

たのです。だから、こんな楽しいものをもっと多くの人に伝えたいと独立し、道院長になったわけです。そして勉強を進めるほど、その奥の深さに魅了されていきました。

実際に道院長になってみると、仲間と共有し合う楽しい空間をつくることは苦しい部分もあります。が、それも含めて楽しんでみるといいですよ。一緒に楽しむ。非常にやりがいがあると思います。

代表 そう。自分の意志の力でそれができるのが、少林寺拳法なのだろうなと思います。私は努力すれば誰でもできる、と自分に言い聞かせて道院を建てました。これは自分に仕掛けをしたのです。どちらかといったら私は怠けてしまうので、自分の意志で変えたのです。

師家 やりたいことがあるのは、すごく大切なことです。だから一生懸命、自分で仕掛けをつくって頑張れるのだと思います。



ただ中には、道院を持つことが目的になってしまい、その先の本当にやりたいことがぼやけてしまう人がいるのかもしれない。道院を持つて人材育成をして、何をしたいのかということをもっと具体的に持つと違うのではないでしょうか。

可能性を広げて未来へ

代表 私はそれぞれの道院で布教方法は違って当たり前だと思っています。その道院活動もチャンス潰すのではなくて、可能性を広げたいと考えています。

例えば、心が弱った方たちとの接し方に慣れた道院長もいれば、青少年育成に注力した道院もある。地域性によっても異なるので、やはり道院長の裁量に任せないといけないと思うのです。それを、一律に同じ方法を押しつけるのは、かえってこの道布教の妨げになります。

この違いを受け入れられる度量がないといけません。そして、道院長がお互いに切磋琢磨して、それぞれの長所を生かして協力していくことが教区活動だと思っています。

宗務局長 そうですね。そして、道院長に自信を持って布教活動していただくためにも、本山は魅力がなけ

スピード感のある組織に、
風土改革を進めたい

—— 師家

チャンスを広げ、可能性を
信じる人を応援していく

—— 代表

魅力ある本山にするとともに
教区活動に積極的に協力する

—— 宗務局長

ればいけないと考えています。都道府県教区の勉強会があれば、私は出ていくことを厭いません。本山と教区の絆をより深めるためにも、金剛禅の役員ができるかぎり協力していく体制が必要だと思っています。

師家 そのためにも、早急に行事の見直しが必要ではないでしょうか。もっと道院長が余裕を持って勉強できて、考えを実践してみる時間があるようにしないといけないと思います。

私は本山に限らず組織の風土改革を進めたいと思っています。今の社会の中で私たちに何ができるかを考えることが大切です。スピード感も含めて今のままではいけないと思っています。

代表 今、多くの人が与えられることに慣れすぎて、向上心とか、チャンスを自分で広げるといった努力に欠けているのではないかと私は感じています。現状維持に満足して守りを固めるだけではいずれ廃れます。

道院長が納得感を持って前に進めるよう、支援していくのが本山の使用命だと思っています。

それには、可能性を見いだして、情熱を持ってもらえるようにしないといけないと思っています。しかも情熱を限定してはいけません。多くの人がチャンスをものにして、喜んで金剛禅運動に邁進していただけるような、2012年はそうした年にしたいですね。



開祖語録 ダイジェスト

1975年7月15日
夏季大学拳法部
本部合宿A週

大学を出た100人の同期生が、ある大会社へ入っているのを私は知っておる。ところが3年もたつと、駅弁大学と悪口を言われる地方から採用したやつが役に立ち信頼されて抜擢されるのに、一流大学を5番以内で出たやつが係長にもなれない。私のところへ泣き言を言うてきた。

先生、こういうことやって一生懸命努力し、ツテもたどり、おやじの力も借りてああもした、こうもしました。そのことだけ見たら確かにそいつのほうが功績がある。

ところが、それ以外でとんでもない落とし穴があった。それは先輩の信頼を裏切っておる。先輩が即もう敵になつて。半ばは他人のとい

人間は死ぬまで変化を続ける

う、半ばは先輩の立場を考えてということをやってなかったから、先輩はむしろ敵視をしたんだね。こいつはおれの跡をねらつてると。こいつを育てたら、俺の首が危なくなるということで、学校の先輩が知らん間に実は敵になつておった。

いいか、同じやるんなら、人にも喜んでももらえ、自分も納得のいける人生を過ごそうではないか。合宿終わったら国へ帰つて、おやじの、おふくろの肩の一つもたたいてあげてみい。どれだけ親が喜ぶ？ 親さえ

喜ばせんようなやつが、彼女を喜ばせるはずがない。彼女の親に気に入るはずがないぞ。きょうからでも新しい人生を発見しろ。自分の人生を自分でつくれ。変えられる、必ず。

少林寺拳法を俗に易筋行（えつきんぎょう）という。易という字は変化をすること。易の意味だぞ。きのうの自分とあしたの自分は違わなければいけない。肉体の細胞が時々刻々に再現されつつあると同じように、人間は死ぬまで変化を続けるべき存在でなければならんと思う。

清風

vol.20 宗務局長 田村 明

ブータンの国王が 来日された

ブータンの国王が来日された、すがすがしい旋風を巻き起こしたと伝えられた。まさにユーモアもあり氣品に満ちた立ち居振る舞いもあり、見る者を魅了した。話の中にいつもあるのは、感謝の気持ちと謙虚な姿勢であった。東日本大震災の被災地での民族衣装で合掌する姿は、感動さえ与えた。みずからの国家や宗教、そしてあいさつまで自信に満ちた姿はすばらしかった。

開祖は教範「第三編第三章四、少林寺の礼式について」で合掌礼について、「合掌礼の礼式こそ、世界最高の礼式であり、大聖釈尊が定められたる唯一の礼法として、二千五百年の間仏弟子の間に伝えられ、行じられてきたものである」と書かれている。さらに「人と人との交わりは、礼に始まり礼に終わるものでなければならぬ。その行礼が正しければ、姿勢も正しくなり、心もおのず

から正しくなるものである……」とあり、礼は社会生活の中で必要不可欠なものであるとしている。合掌礼が正しくできればすばらしい関係が結ばれるのであろう。

コンピューターでの仕事やメールでのやり取りが増えることで、人と人との心のやり取りが失われてはいけない。心の繋がりがあからこそ少林寺拳法である。礼に始まり、心が繋がりが、礼で終わる。

遥かなる釈尊(中)

世界宗教とはいえ、仏教には複雑で曖昧な宗教儀礼が多いといわれている。

そもそも仏教の教理や儀礼は、インド本国の釈尊の初めから12世紀末の衰滅までの間においても、著しく変化、複雑化していったのである。以下述べてみる。

釈尊滅後まもなく、出家の弟子たちは遍歴生活をやめ、次第に僧院に定住し、王族らの経済的援助の下に学問と瞑想に専念するようになった。滅後100年ごろには、すでに多くの学派に分かれ、教義や戒律の解釈を巡って対立が起きるなど部派仏教の時代に入っている。部派は釈尊の悟りの法を論理的に分析研究する論書(アビダルマ)を多数作ったのである。

出家修行者は声聞とか独覺とも称されたが、共に阿羅漢という聖者になることを最高の理想としていた。彼らは現世においては、遠い未来に弥勒仏が現れるまで、仏陀は存在しないと考えていた。

一方、在家信者たちは、釈尊が死去したとき、その遺体の火葬やストゥーパ(納骨塔)の建立、供養などのすべてを担った。出家の弟

子たちはこれらに関与していない。釈尊を思慕崇拜した在家信者たちは、ストゥーパに集まり、分裂している部派仏教の出家僧団が、一般信者を顧みず自利のみに走る傾向を、小乗と蔑称しながらも、その教義を借用し、次第に自前の教団を組織し拡大していった。これが大乘仏教の興起である。

大乘仏教徒たちはみずから菩薩と呼び、仏陀になることを理想とし、それ以上に、あらゆる人々を悟らせ、救済しようと慈悲を強調した。彼らは、十方の世界に無数の仏陀が存在することを信じ、いわば信仰の仏教を展開させていった。自他の善行の功德を諸仏に捧げる、回向という儀礼をつくりだし、ヒンドゥー教やゾロアスター教などの有神論の影響をも受け、独創的な空の思想も展開した。

以上、仏教の大まかな変化をまとめれば、原始仏教(初期仏教)、部派仏教化、大乘仏教化、密教化、ヒンドゥー化という過程を持つことになる。

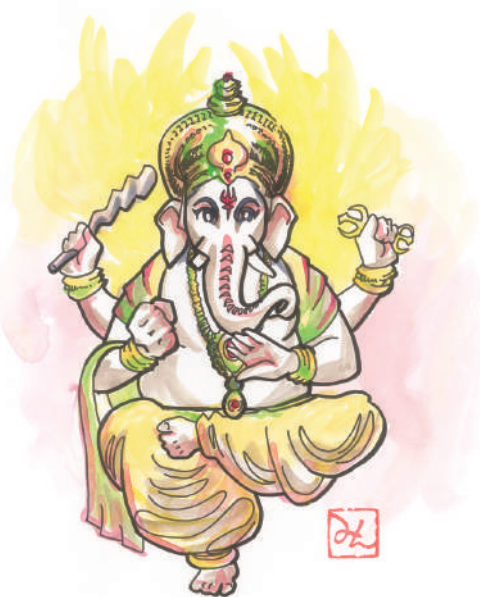
端的にいえば、バラモンの伝統的特権を承認せず、革新的に興った釈尊の仏教も、時代につれ、密教やヒンドゥー教などの影響を受

けつつ、インドの習俗文化に発展的に解消されてしまったことになる。そしてインドでは仏陀もまたヒンドゥー教の一神に祀られる存在となってしまった。

そして大乘仏教は、中央アジアを経て漢訳仏典により中国から朝鮮、日本へ、北方仏教として伝播し、小乗仏教はバリー語仏典などにより、東南アジアへ、南方仏教として伝播したのである。

思えば釈尊の仏教は日本の仏教からも実に遠い、遥かなところにある。そのような中、南方仏教の出家僧団は、教理や儀礼面において、現在も釈尊の仏教に近い純粋なものを継承させているという。興味深いことである。

(つづく)



道



共に正道を歩こう

函館亀田道院 手坂世志雄道院長

少林寺拳法とは何か？

言うまでもなく、それは、金剛禪の護身練胆、精神修養、健康増進の三徳を兼備した行である。開祖は、戦争を生き、敗戦後の混乱期に中国から帰国し、亡国と化するが如き日本の姿を目の当たりにした。そこで、祖国復興に役立つ人間を育成しようとして決心して少林寺拳法を創始し、道を説いたのである。

少林寺拳法への入門の動機は人さまざまであろうが、私は、入門して時間がたつにつれ、開祖の考え方、生き方に感動し、共鳴し、途中挫折したこともあったが懸命に修行した結果現在に至っている。そして、人づくりの一助になろうと、人としての質を高めようとして門下生に道を説いているのである。開祖亡き後も開祖の示された道を歩んでいるのである。今、本当にそうであろうか？と自問してみる。17号でも詩人・彫刻家高村光太郎の「道程」という詩が出ていたが、ここでもう一度取り上げて考えてみたい。

道程

僕の前に道はない

僕の後ろに道は出来る

ああ、自然よ

父よ

僕を一人立ちにさせた広大な父よ

僕から目を離さないで守る事をせよ

常に父の気魄を僕に充たせよ

この遠い道程のため

この遠い道程のため

この詩の中の「自然」「父」を「開祖」に置き換えてみると、この詩がより理解できるのではないだろうか。

前段に開祖の示された道を歩いていると書いた。ということは、僕の前に道があるのだ。最前線にいるのではないのだ。示された道を歩いているだけなのだ。少林寺拳法を背負って、人づくり、国づくり、世界の平和を願って、日々真剣に気魄を持って行動しているのだからか？ということである。

今年、少林寺拳法はIT化に踏み切った。その結果は想定外で、今も混乱をしている。東日本大震災もいろいろな意味で追い打ちをかけた。創始60余年にして初めての大きな危機かもしれない。

ちまたでは、いろいろな声が聞こえてきて

いる。しかし、批評してばかりでは前に進まない。評論家というのは、実は、最前線にはいないのである。後方にいるがために（安泰であるがゆえに）好き勝手をいえるのである。それでよいのだろうか？

今、なすべきことは、原点に帰り、師の思いを改めて心に留め、少林寺拳法の発展に尽くすことであろう。

道訓の初めに「道は天より生じ、人の共に由る所とするものなり……」とある。

道を切り開くことは容易ではない。一人ならなおさらである。しかし、同じ志を抱く者と共に歩めば、道はきつと開かれよう。そして、共に歩む者が多ければ多いほどそれは、さらに容易となるのではなからうか？

3月11日東日本大震災が発生して、改めて政治や電力会社、保安院などに携わる人の質について考えさせられた。まさに、開祖の言うとおりである。

人としての質の向上、高い質を持った人間をたくさん世に送り出して理想境建設に邁進することが、少林寺拳法に携わる者の道であるといまさらになって思うこのごろである。

ダイジェスト

×



志をつなぐ

vol.5

まきの きよし
牧野 清 153期生
少法師大範士九段

人は一人ではない、
開祖が教えてくれた人としての生き方

開祖からは人としての生き方を勉強させていたのだと思っていました。少林寺拳法に出会っていなかつたら今頃はどんな人間になっていたことか……喧嘩に明け暮れる毎日で一匹狼だった私に、人は互いに助け合い支え合って生きていることを身にしみて実感させてくれたのは開祖でした。よい方向に自分を変えることができたと思っています。

人を見て法を説き、相手の立場に立つて考え行動する、人情の機微を知る開祖がしてきたやり方をまねしてきました。少林寺拳法に、開祖に出会って学んだことで、今はたくさんの方の縁に恵まれお金には換えられない喜びを感じています。これこそ財産だと思っています。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



1963年8月の指導者講習会にて

ダイジェスト

×



道院長 元気の素

vol.5

まえはしちゅうぶ
前橋 中部道院
はぎわらなおき
道院長 萩原直樹 (44歳)

教える「学ぶ」、
道院長になって自分を变えていこう

——将来指導者を目指す全国の拳士にエールをお願いします。

指導者になって、教えているつもりが、子どもたちや一般の方々に自分が教わっていたような気がします。「教える」「学ぶ」ということでしょうか。道院設立20年がちらほらと見えてきたこのころ、そんなことを感じたりしています。子どもたちからすると、道院長はスーパーマン

なんだそうです。人を教え、育て、さらには組織を運営していくことは決して容易なことではないと思います。ですが、今この社会に必要なのは、いろいろな意味でのスーパーマンの存在ではないでしょうか。道衣に袖を通した若いスーパーマンが全国各地で誕生することを期待してみません。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



10月度認証式

さあ、ここからがスタートだ！

10月23日、本山において認証式が行われ、道院長18人が認証を受けた。

式典では、浦田武尚代表が「願文」を奉読し、認証者全員で「誓願文」を唱和した。その後、浦田代表から一人ひとりに認証書が授与された。認証式には、これまで道院長を側で支えてこられた家族の方や拳士、関係者らも参列された。

浦田代表から激励の言葉を受けた認証者は、緊張した面持ち



ながらも凛とした表情であった。昨今の厳しい社会情勢ではあるが、だからこそ人づくりによって社会貢献するという志を持つて社会や他の人の役に立つ人間を多く育てていけるよう、新たに道院長に就任した方々がそれぞれの地域で活躍されることに期待したい。(富田雅志)

僧階補任講習

金剛禅布教者として学びを深める

11月13日、本山にて僧階補任講習(中導師・大導師)後期を開催した。

本講習は、夜が明けきらぬ早朝6時から開催されたが、清冽な雰囲気の中、受講者の表情も学ぶ意識の高いものであった。

教学に関する講義、儀式における所作の確認・実習、少林寺拳法修行法の実践など、金剛禅の修行者としての自己を深く見つめ、布教者・指導者としての使命感を高めるためのプログラムを実施した。

受講者は14人、内1人はみずからの研鑽を目的に聴講として受講した。閉講式では7人に大導師、6人に中導師補任の僧階辞令が授与された。

今回の受講者たちが各地域に

活躍し、金剛禅運動がさらに活性化することを期待する。

(小林博紀)

中村秋尚道院長勤続50周年を祝う

10月30日、福岡市のホテルにおいて中村秋尚福岡北道院道院長の勤続50周年記念祝賀会が、福岡県内の道院長、支部長、部長、監督有志61人により盛大に挙行されました。

晴れやかな道院長ご夫妻を迎え、久保田利幸九州総代の祝辞に始まり、道院長の業績をプロジェクターで紹介しましたが、終了すると中村道院長が感極まって落涙する場面があり、それを見た出席者全員も深く感動しました。

10代で九州の地に少林寺拳法の先兵として根を下ろし、その後幾多の艱難辛苦を経て、今日の福岡県教区・県連盟の基礎を築かれたその功績とご苦労に出席所屬長一同改めて思いを新たにしました。半世紀にわたりその心身をすべて少林寺拳法の布教普及に捧げてきた中村道院長は、福岡県の誇りであり後続の所屬長の目標でもあります。

祝賀会は、森山廣平福岡県教区長の乾杯の発声で一気に盛り

上がり、道院長夫人ら5人も交え終始和やかに進行し、花束記念品贈呈の後、道院長ご夫妻による感謝の言葉に続き、益永亮県連理事長の発声で全員による「祝いめでた」の合唱、そして博多独特の「博多一本締め」で締め、重量感のある道院長の体を高く胴上げして滞りなく終了しました。

中村秋尚道院長の変わらぬ少林寺拳法に対する熱い思いを、出席者それぞれが受け継ぎ、さらなる金剛禅布教活動に邁進することを誓いながら散会しました。(佐藤健二)

米子西道院設立25周年記念祝賀会

9月18日、大山ロイヤルホテルにおいて、米子西道院設立25周年祝賀会が開催されました。来賓として宗由貴少林寺拳法グループ総裁、鈴木義孝SHORINTU KEMPO UNITY顧問、県内外の道院長、支援者の方々などをお招きし、現役拳士・保護者・OB・OG拳士など総勢110人が参加いただき、盛大な会となりました。

祝賀会に先立ち、宗由貴総裁の講話が行われ、参加者に向けて「開祖の残してくれた大切な

財産をいかにしてこの時代に生かすかを、私たちは考えていかねばならない」とのメッセージを頂きました。

講話の後の祝賀会は、後援者である中田利幸氏の居合の演武で開幕。道院拳士の演武披露の後、来賓の方々からのご祝辞を頂き、川端哲川西北道院長のご発声による乾杯で祝宴に入りました。

祝宴では、勇壮な大蛇退治の日南神楽、道院拳士の所属する三味線グループによる津軽三味線の演奏、道院拳士二人組のユニットによる「ひとりひとりの心に深く」の演奏など、開場の雰囲気は和やかに盛り上がり、会場のあちらこちらで旧交を温める拳士・関係者の笑い声が上がりました。

祝賀会の終盤では、道院の25周年の歩みを振り返るビデオが上映され、懐かしさに臉を押さえる人の姿も見られました。

最後の山田弘次道院長からの謝辞では「今後も体の続くかぎり、少林寺拳法を通じてよい仲間づくりをしていきたい」との決意表明がなされ、道院拳士一同、今後のさらなる精進と道院の発展を心に誓う式典となりました。(金田尚紀)

九段特別昇格者

2011年10月9日付

田原 正晴(岡山光南道院)



牧野 清(西陣道院)



僧階昇任者

大法師

■2011年10月9日付

浦田 武尚(金剛禪総本山少林寺)



少法師

■2011年10月9日付

川端 哲(川西北道院)

東山 忠裕(黒部道院)

松本 好史(加古川氷丘道院)

竹田 則幸(北海道厚岸道院)

大導師

■2011年11月13日付

米田 友厚(榛原道院)

市村 宣顕(徳島土成道院)

水窪 慎一(熊本玉名道院)

澤田 一彦(東松山道院)

飯田 真弘(厚木東道院)

木村 邦彦(清須西道院)

石田 浩一(伊勢崎東道院)

中導師

■2011年9月11日付

島袋 容子(那覇北道院)

■2011年10月1日付

乾 茂一(富田林道院)

遠藤 康二(宮城大河原道院)

富山 稔(伊予宮下道院)

東 大輔(石川野々市道院)

福本 修平(横須賀衣笠道院)

■2011年11月13日付

藤田 博也(神戸港島道院)

岡 賢一郎(沼津愛鷹道院)

高橋 康子(江別大東道院)

若林 瑞樹(東京平井道院)

鳥海 稔雄(千葉袖ヶ浦道院)

北川 悟(近江八幡道院)

法階昇格者

大範士

■2011年10月9日付

加藤 義秋(綾南道院)

森 明弘(蔵本道院)

中山 久義(宇多津道院)

鎌田 智(高松木太道院)

高山 恒一(生駒道院)

今城 隆廣(奈良中央道院)

山崎 隆尉(岡山灘崎道院)

倉田 健治(東松山道院)

藤岡 宏(山陽網干道院)

木下 光治(板野道院)

宮脇 功次(小野田道院)

齋藤 秀明(佐野道院)

秋吉 好美(多摩豊田道院)

森 健太郎(江南道院)

徳嶋 繁(豊橋道院)

後藤 正人(鹿児島錦江道院)

小池 靖彦(伊那道院)

黒澤 正興(横浜慈眼寺道院)

長田 正紀(山口西京道院)

松井 邦彦(大阪池田道院)

大野木 憲三(埼玉鶴瀬道院)

中平 新一郎(練馬道院)

正範士

■2011年9月25日付

大森 彰(岡山西大寺道院)

阿藤 敏明(岡山中央道院)

内田 弘志(霞ヶ浦道院)

平 勝夫(A.C.C)

小尻 博行(音戸道院)

永原 秀之(東京志茂道院)

伊藤 徹男(今治道院)

常藤 修示(津山川崎スポーツ少年団)

准範士

■2011年9月25日付

豊田 耕三(千駄ヶ谷道院)

池谷 新次(浜松中央道院)

山根 孝男(国立道院)

渡部 菜穂子(山口厚狭道院)

佐々木 昇(千駄ヶ谷道院)

岩館 修(盛岡中部道院)

小川 暢英(吹田市スポーツ北千里)

菅井 和明(新潟朝日道院)

松井 基員(大阪伊吹道院)

伊藤 重充(伊那道院)

横尾 政(市原東道院)

服部 栄一(愛知豊山道院)

伊藤 浩一(千葉海匠道院)

堀 隆信(阪南大学)

阪田 博之(寝屋川道院)

浦田 和弥(東吉野道院)

蛭田 俊司(勿来道院)

山崎 高治(中曽根道院)

お布施

▷石井宏明 100,000円

▷作東道院 10,000円

達磨祭御礼

岡山県少林寺拳法連盟、境港道院、川西中部道院、大阪南百済道院・大阪富木道院、倉敷連島スポーツ少年団、加藤 義秋、鎌田 智、篠原 正、庄野 雅巳、村上 一、田原 正晴、牧野 清、本田 演昭、萩原 妙子、ガールスカウト香川第六団、ボーイスカウト仲多度第一団、ふれあいの家、吉田愛服飾専門学校、香川県日中友好協会会長、国際ゾント高松ゾントクラブ、自衛隊香川地方協力本部、多度津高等学

校、多度津商工会議所、多度津町観光協会会長、特別養護老人ホーム桃陵苑、オークラホテル(株)、ツネインホールディングス(株)、ツバメ工業(株)、(株)JTB中国四国高松支店、(株)STNet、(株)イハラ、(株)オザキ、(株)カナックビジネソリューション、(株)カメイ務商店、(株)スタート、(株)バイアンドバイ、(株)ホテルサンルート瀬戸大橋、(株)一鶴、(株)吉塚仏壇店、(株)琴平グランドホテル、(株)香川銀行、(株)高松ホットスタンプ、(株)高松三越、(株)合田工務店、(株)坂出グランドホテル、(株)三貴商事、(株)三共包材、(株)前川

商店、(株)百十四銀行、関西実業(株)、亀山石油(株)、香川印刷(株)、今治造船(株)、山陽放送(株)、四国旅客鉄道(株)、多度津駅、新日本印刷(株)、善通寺ステーションホテル、多度津石油(株)、大和証券(株)高松支店、中央三井信託銀行(株)、中讃ケーブルビジョン(株)、凸版印刷(株)、日本総合保険企画(株)、富士建設(株)、名鉄観光サービス(株)、野村證券(株)高松支店、郵便事業(株)、林田石油(株)、東洋防蝕工業(有)、(有)えびず、(有)華や商事、(有)溝渕造園、(有)香川建築設計事務所、(有)西山印刷所、(有)長尾酒店、(有)白光舎、(有)福本文

啓堂、ウツミ整形外科医院、お好み焼きよこた、お好み焼きわかやま、お食事処まんぶく食堂、カガミ写真館、カフェレスト・キャッツ、フラワーショップじゅん、ペンションでぐち荘、ホテルトヨタ、葛上精肉店、岸本税理士事務所、三吉旅館、山崎花店、小畑長生治療院、大西旅館、桃陵クリニック、民宿ちぐさ、民宿トキワ、民宿浦島屋、民宿細川、宮竹 八千代、進藤昭次郎、草薙 昭典、村井 智子、村野 巨樹、多羅尾 尚、中数賀 昭子、藤林 幸夫、平田 美智子、平尾 吉司郎、木下 敏男

訃報

やまなか つよし

山中 剛 浅草今戸道院道院長、218期生、中導師准範士六段。

11月21日逝去、満63歳

1月の本山行事

7日(土) 表彰式、都道府県教区長会議

8日(日) 新春法会

27日(金)~29日(日) 道院長資格認定研修会

2月の本山行事

26日(日) 帰山・認証式

編集後記▶新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。▶昨年は、開祖生誕100年の大きな節目の年として、各種イベントも計画が予定されていたが、3・11の東日本大震災により、国内の活動が停滞した。あたかも敗戦直後の壊滅状態が、目の当たりに再現されたようだ。▶開祖の志を受けた門信徒として、早急に復旧・復興を実現すべく共に理想境建設に邁進したい。(あ)

表紙▶河合修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。ホームページは「写真家 河合修」で検索！名古屋千種道院、中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/index.html>
2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺 検索

あ・うん vol. 20
金剛禅総本山少林寺広報誌 2012 睦月・如月

2012年1月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：浦田武尚

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：秋吉好美

企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院

〒170-0004

東京都豊島区北大塚2-17-5

☎03-5961-1400

e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

印刷・製本：(株)ブル・ドック

※本誌の発行に掛かる費用には、SHORINJI KEMPO UNITY によるライセンス事業の収益金が活用されています。

広報誌『あ・うん』追加発送について ◇◇◇◇◇

現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき10部ずつ(一般財団支部は1部ずつ)、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円・送料別途要)

TEL.0877-33-1010

e-mail fukyoka@shorinjikempo.or.jp

いち ご いち え
一期一笑



イラスト／大原由軌子

札幌あかしや道院 阿達美恵子

道院で修行した心を忘れずに

北海道大学で行われた七帝戦に、審判として参加したときの事です。審判席にいた私に一人の拳士が声をかけてきました。「小さいときに札幌あかしや道院で練習していましたKです。今、東京大学の少林寺拳法部で練習しています。今年3年生になりました。お元気でしたか?」もうびっくりです。小さかったK君が……。K君はどちらかというとおとなしい子でしたが、今は少林寺拳法部の幹部として皆を引っ張っていく頼もしい存在になっていました。ご両親の転勤で北海道を離れて以来、約10年ぶりの再会です。聞くと、小学校からずっと、中学、高校、大学と、少林寺拳法を離れず修行を続けていたとのこと。続けさせ

てくれたご家族の方、指導された先生の温かさを感じ入りました。「小学校のときに初めて札幌あかしや道院で少林寺拳法に出会い、以来、道院で修行したときの心を大事にできました」という言葉に胸が熱くなると同時に、私はきちんと教えを伝えたのだろうか、冷や汗をかく思いをいたしました。どんなときも教えを伝えていく重要性をひしひしと感じさせられました。さっそく道院で幹部の川渕千英子拳士にこのお話をいたしましたところ、私と一緒に喜んでくれ、その笑顔にさらに心が温かくなりました。少林寺拳法は人を大事にする「教え」を自然に備えていることを実感した出来事でした。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

宗門の行としての少林寺拳法



われは右拳をやや高めに挙げ、前腕を立てて構える。相手が手首をつかむ刹那、相手の拇指の谷を下方へ押さえ気味に、われの腹の高さにまで手首を下げて^{かぎ}て鉤手守法をとると、相手は手に力を入れることができなくなる。相手の手首とわれの手首を「十の字」にクロスさせるように肘を内側へ入れると、相手の手首は殺される。続けて、肘を脇腹へ引き戻すようにすると、抵抗なく抜くことができる。

撮影／近森千展 文／飯野貴嗣 演武者／守者：川島一浩 正範士七段 攻者：飯野貴嗣 准範士六段



SHORINJIKEMPO